

平成 24 年 6 月 25 日公表

富山県鉱工業生産の動き

～平成24年(2012年)4月分～

平成23年の原指数・季節調整済指数を年間補正しました

総合指数

平成17年(2005年)=100、季節調整済

	24年4月	前月比 (%)	前年同月比 (%)
生産指数	89.2	▲6.5	▲1.3
在庫指数	103.6	▲0.8	16.1

- 1 生産指数 (季節調整済指数) は 89.2 と前月に比べ▲6.5%の低下となり、2ヵ月連続で低下した(図表)。これは 13 業種中、化学工業、一般機械工業、電気機械工業など10業種が低下したことによる。なお、上昇した業種は、食料品工業、輸送機械工業、パルプ・紙・紙加工品工業の3業種である。業種別にみると、化学工業は医薬品などの減少により前月比▲9.3%の低下で 153.7 となり、一般機械工業は金属工作機械などの減少により前月比▲4.2%の低下で 91.3 となった。他方、食料品工業は飲料などの増加により前月比 1.8%の上昇で 117.9 となった。また、前年同月比 (原指数) は▲1.3%の低下となり、4ヵ月連続で前年を下回った。なお、13業種中、平成17年基準の指数 100を上回っている業種は、化学工業(153.7)、食料品工業(117.9)、輸送機械工業(113.6)の3業種となっている。

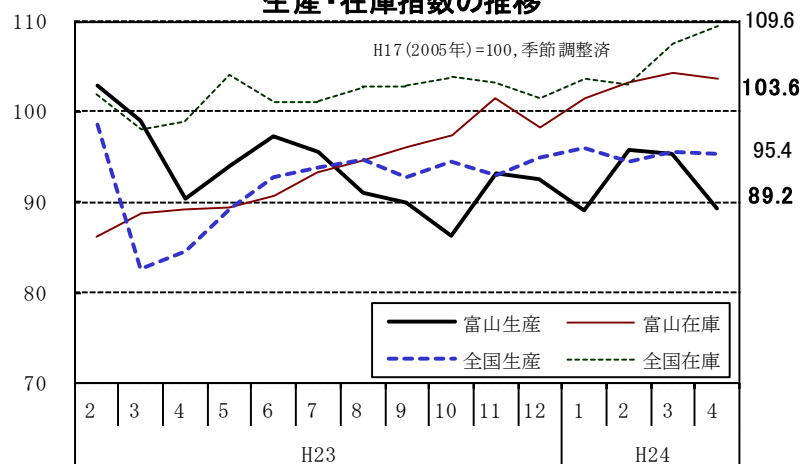
- 2 在庫指数 (季節調整済指数) は 103.6 と前月に比べ▲0.8%の低下となり、4ヵ月ぶりに低下した(図表)。これは 13 業種中、金属製品工業、繊維工業など6業種が低下したことによる。なお、上昇した業種は化学工業、鉄鋼業など7業種である。また、前年同月比 (原指数) は 16.1%の上昇となり、14ヵ月連続で前年を上回った。

指数の動き

平成17年(2005年)=100、季節調整済指数

		富山県		全国	
		生産指数	在庫指数	生産指数	在庫指数
平成23年	2月	103.0	86.1	98.5	102.0
	3月	99.1	88.8	82.5	98.1
	4月	90.4	89.2	84.5	98.9
	5月	94.1	89.4	89.4	104.0
	6月	97.2	90.7	92.8	101.1
	7月	95.6	93.4	93.8	101.1
	8月	91.1	94.7	94.6	102.8
	9月	89.9	96.2	92.8	102.9
	10月	86.2	97.4	94.5	103.8
	11月	93.2	101.5	92.9	103.3
	12月	92.6	98.3	95.0	101.5
	平成24年	1月	89.1	101.5	95.9
2月		95.8	103.3	94.4	103.1
3月		95.4	104.4	95.6	107.5
4月		89.2	103.6	95.4	109.6

生産・在庫指数の推移



- 次回公表予定日：平成24年7月25日(水)
- 「富山県鉱工業生産の動き」は、HP「とやま統計ワールド」でご覧になれます。

<http://www.pref.toyama.jp/sections/1015/index2.html>

平成24年4月分 業種別の主な動向

※ ウェイトは10000分比で算出

※ 業種は寄与度(全体に与える影響)の大きいものを掲載

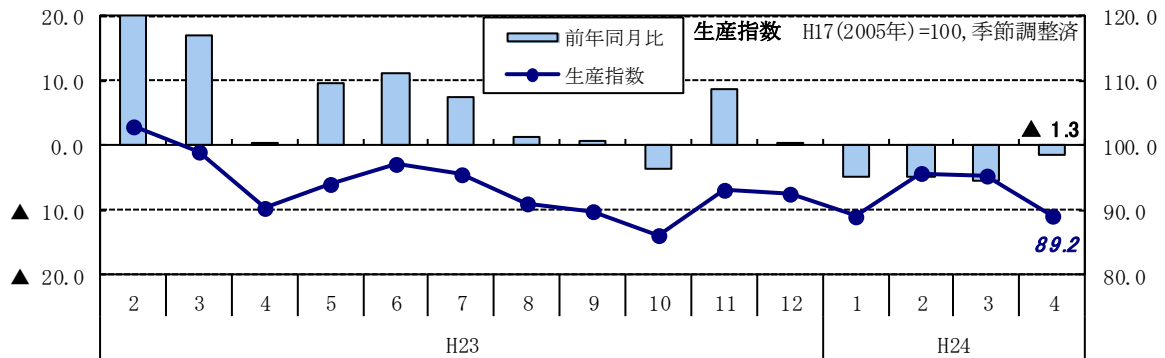
<生産> [指数 89.2 (前月比 ▲6.5%)]

↓ 低下した業種 (10業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比 (%)	寄与した主な品目	前年同月比 (%)
化学工業	2034.0	153.7	▲9.3	医薬品など	0.3
一般機械工業	1225.6	91.3	▲4.2	金属工作機械など	▲14.7
電気機械工業	2112.5	42.8	▲4.0	その他集積回路など	▲11.5

↑ 上昇した業種 (3業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比 (%)	寄与した主な品目	前年同月比 (%)
食料品工業	265.3	117.9	1.8	飲料など	6.3
輸送機械工業	342.4	113.6	10.9		152.0
パルプ・紙・紙加工品工業	467.6	82.3	5.4		▲6.8



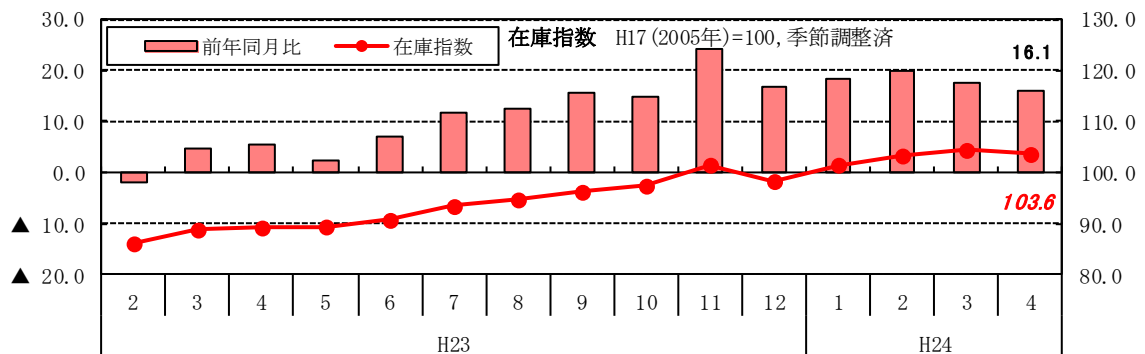
<在庫> [指数 103.6 (前月比 ▲0.8%)]

↓ 低下した業種 (6業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比 (%)	寄与した主な品目	前年同月比 (%)
金属製品工業	674.5	65.9	▲12.8	軽金属板製品など	11.6
繊維工業	521.2	54.5	▲9.3	衣類など	3.6
一般機械工業	668.5	147.1	▲3.9		20.6

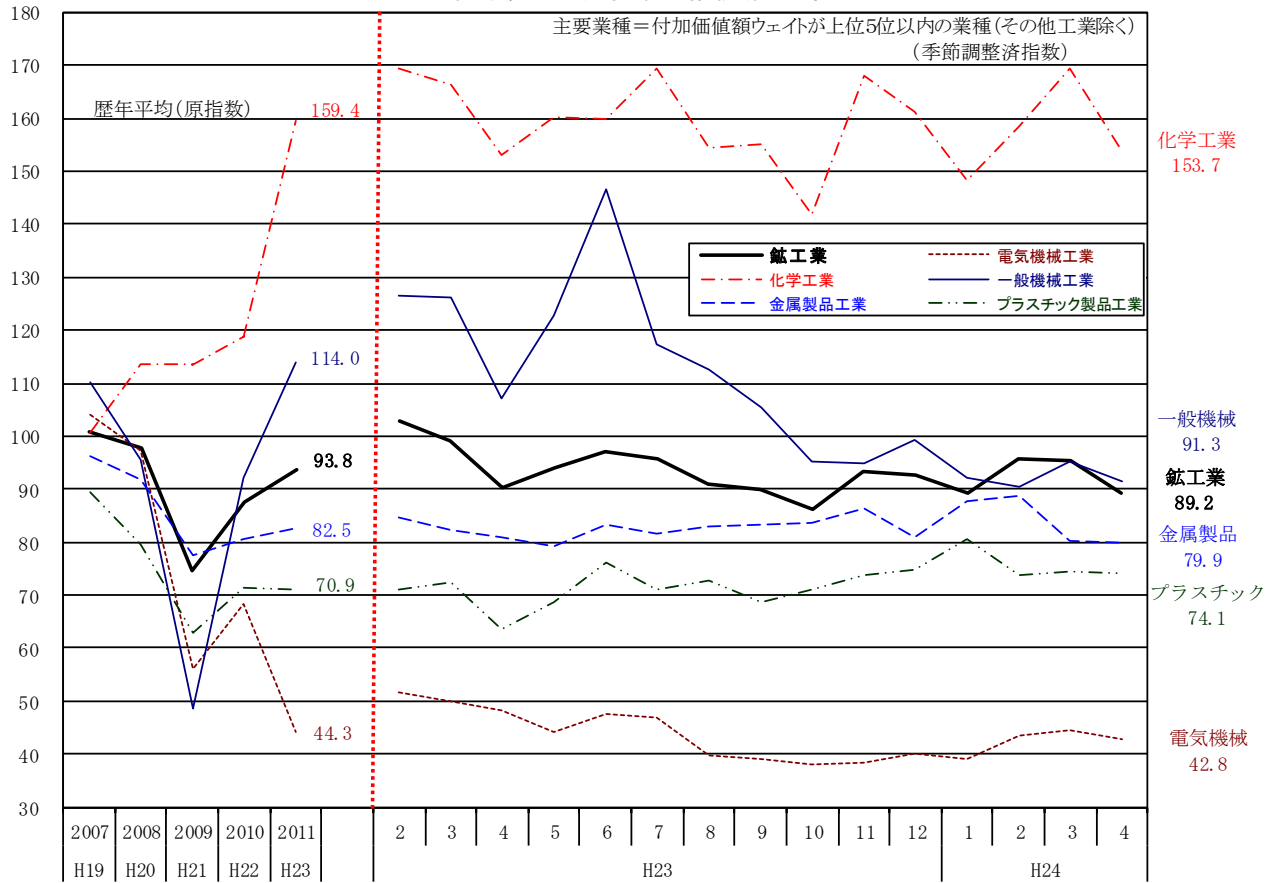
↑ 上昇した業種 (7業種)

主な業種	ウェイト	指数	前月比 (%)	寄与した主な品目	前年同月比 (%)
化学工業	2527.2	150.6	1.8	医薬品など	34.9
鉄鋼業	1090.7	73.7	7.3	熱間圧延鋼材など	9.8
パルプ・紙・紙加工品工業	911.5	115.2	4.5		22.0



主要業種別生産指数の推移(富山県)

H17(2005年)=100



主要業種別在庫指数の推移(富山県)

H17(2005年)=100

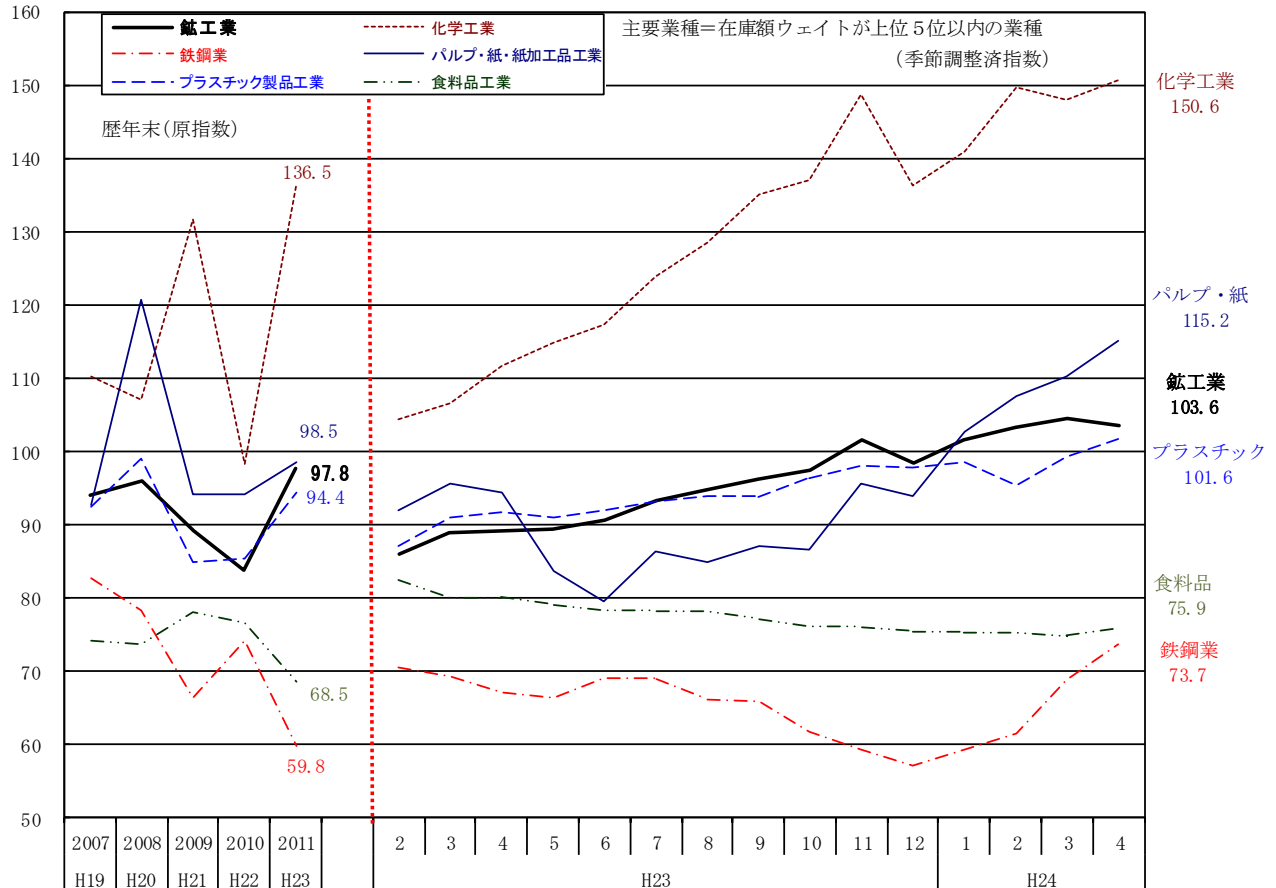


Table with 12 columns: Items, Weight, Final demand goods (Investment goods: Capital goods, Construction goods; Consumer goods: Durable, Non-Durable), Producer goods (Mining/manufacturing, Others), and a column for Year/Period. Rows include items count, weight, and index values for various periods from Heisei 19 to Heisei 24.

Table with 12 columns: Items, Weight, Final demand goods (Investment goods: Capital goods, Construction goods; Consumer goods: Durable, Non-Durable), Producer goods (Mining/manufacturing, Others), and a column for Year/Period. Rows include items count, weight, and index values for various periods from Heisei 19 to Heisei 24.

※ 生産、在庫の年数値は原指数である。

※ 在庫の年数値は年末値、四半期数値は期末値である。

最終需要財(鉱工業又は他の産業に原材料等として投入されない製品。ただし、建設財を含み、企業消費財を除く。)

投資財(資本財と建設財の合計)

資本財(家計以外で購入される製品で、原則、想定耐用年数が1年以上で比較的購入価格が高いもの。)

建設財(建築工事用の資材及び衛生用陶磁器等の建築物に付随する内装品及び土木工事用の資材)

消費財(家計で購入される製品。耐久消費財と非耐久消費財の合計)

耐久消費財(原則、想定耐用年数1年以上で、比較的購入単価が高いもの。)

非耐久消費財(原則、想定耐用年数1年未満又は比較的購入単価が安いもの。)

生産財(鉱工業又は他の産業に原材料等として投入される製品。ただし、企業消費財を含み、建設財を除く。)

鉱工業用生産財(鉱工業の生産工程に、原材料、燃料、部品、容器、消耗品、工具等として再投入される製品)

その他用生産財(非鉱工業用の原材料、燃料、容器、消耗品及び企業消費財)

鋳工業指数利用者のために（利用上の注意）

1 作成目的

鋳工業の生産及び在庫状況を数量的に調査し、富山県における鋳工業の動向を総合的に把握することを目的とする。鋳工業指数とは、一定地域内における月々の鋳工業生産量及び在庫量を、ある一定時期を基準にして指数化したものである。

2 基準時及びウェイト算定年次

指数の基準時は平成17年(2005年)である。したがって、指数値は平成17年の平均を100.0とした比率で示されている。また、ウェイトも平成17年の産業構造により作成されている。

平成17年基準は、平成20年9月25日に公表し、同年7月分指数から適用するとともに、平成15年(2003年)まで遡及計算を行っている。

3 分類

分類は、日本標準産業中分類(若干の組み替えを行っている)に準拠した「業種分類」と、品目の経済的用途に着目した「特殊分類(財別)」の2つの分類による。

4 指数の種類及び採用品目数

	採用品目数				ウェイト算定基準
	計	製造工業	鋳業	電力・ガス事業	
生産指数	198	196	0	2	付加価値額
生産者製品在庫指数	132	131	0	1	在庫額

・生産指数(付加価値額ウェイト)⇒生産活動の生産水準の動き

・生産者製品在庫指数⇒生産製品が出荷されずに生産者段階に残っている在庫の動き

※ 受注生産等で在庫を把握する必要がないものや、在庫の把握が極めて困難で数値が得られない品目があるため、生産者製品在庫指数の採用品目数は、生産指数より少ない。特殊分類は、財用途が2財にわたる(1品目)ものはウェイトを分割して各財毎に集計しているため、業種分類と特殊分類では採用品目数が一致していない。

また、採用単位は、製品数量単位及び製品固有単位を基本としている。

5 総合指数の算式

総合指数の算式は、品目別指数を基準時のウェイトで総合する基準時固定加重算術平均法(ラスパイレス算式)による。具体的には次のとおり。

$$I_t = \frac{\sum P_{i0} Q_{it}}{\sum P_{i0} Q_{i0}} = \sum \frac{P_{i0} Q_{i0}}{\sum P_{i0} Q_{i0}} \times \left[\frac{Q_{it}}{Q_{i0}} \right] = \sum \frac{W_{i0}}{\sum W_{i0}} \times \left[\frac{Q_{it}}{Q_{i0}} \right]$$

I_t …t時点の総合指数

P_{i0} …品目別平成17年平均単価(生産指数は品目別平成17年平均付加価値単価)

Q_{i0} …品目別平成17年1ヶ月平均数量(基準数量)

Q_{it} …品目別比較時数量

W_{i0} …品目別平成17年ウェイト(ウェイトは鋳工業に対する万分比)

6 季節調整方法

センサス局法(X-12-ARIMA)を採用

季節調整済指数 = 原指数 ÷ (季節指数 × 曜日・祝祭日指数)

※ 平成24年1月以降の季節指数は、平成23年の季節指数を適用している。

7 その他

本書記載の数値を転載するときは、「富山県鋳工業生産の動き」による旨を明記してください。

この月報の前月公表値が修正報告により若干変更されている場合があります。

内容についてのお問い合わせは、下記あてにお願いします。

〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号
富山県 経営管理部 統計調査課 商工係
Tel:076-444-3193(直通)